3. 全県報告会の概要

(1) 目的

全県報告会⁶は「コミュニティ生活圏形成事業」の概要と今年度6つのモデル地区で実施された取組の成果を基に、手法や手応えを県民、市町村担当職員、関係機関に向けて発信・共有する目的で行われた。

(2) 開催概要

■日時/場所/参加者

- ・日時 2021年3月10日(水) 13:00-15:30
- ・場所 秋田県庁第二庁舎8階 大会議室
- ・参加 89名(その内オンライン参加者6名)

■次第

第一部 成果報告と今後に向けて

- ①講演 秋田県地区別人口分析の概要と今後のコミュニティ生活圏形成への期待
一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩氏

- ②モデル地区におけるコミュニティ生活圏形成への取組報告

報告者 能代市梅内地区 安井 重雄氏
由利本荘市石沢地区 佐々木 順一氏
三種町鹿渡地区 湯沢 晃平氏

コーディネーター 一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所
所長 藤山 浩氏

- ③羽後町仙道地区の取組について

羽後町集落支援員 崎山 健治氏

- ④県内の最新事例紹介

NPO法人南外さいかい市 事務局 佐々木 繁雄氏

- ⑤今後の取組の方向性について

第二部 パネルディスカッション

テーマ コミュニティ生活圏の形成に向けて

～今こそ地元で定住と暮らしの土俵をつくる！～

①次世代の定住増加の一番課題となっていること

②次世代の定住増加に向けて、一番力を入れたいこと

⁶ 新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため参加者数を制限し、一部の市町村職員にはオンラインで視聴いただいた。本報告会ではZoomビデオコミュニケーションズより提供されるweb会議サービスZoomを使用した。

表 パネルディスカッションで発表されたキーワード一覧

	安井氏	佐々木氏	湯沢氏	崎山氏	橋本課長
① 次世代の定住増加の一番の課題	人口減少	就労先の選択肢が少ない	ビジョン	動き	情報
② 次世代の定住増加に向けて一番力を入れたいこと	田園回帰に向けた行動	地域の個性を引き出す	ビジョン	場づくり	ときめきポイントの発見
③ 集落同士や分野をつないで、こんな新しい仕組みを	コミュニティ	移住特区	ボクシング	なんでもやる課	マトリックス学び座談会
④ コミュニティ生活圏形成のための地域と行政の役割	協働	共創	対話	共有 共同 協同	支え合う パートナー
⑤ 今後に向けての抱負を漢字一文字で	想い	動	種	結	粘

安井氏の発表内容の要約

- ①人口減少に歯止めをかけることが一番の課題。転出抑制、転入促進、出生増加と全て関わってくることだ。
- ②Wi-Fiの整備、ICTの活用、空き家の利用等を様々組み合わせて二地域居住や関係人口増加に力を入れたい。
- ③地域は結いの精神で成り立ってきたが今は衰えている。これからはもう一回、地域皆で話し合っって今後の検討をしていきたい。
- ④地域は事業を実施する中で主体的に動くこと、行政は地域が動きやすくなるように支援するということが大事。
- ⑤「この地域で暮らし続けるためには」をキーワードにしており、この想いを持って頑張っていきたい。

佐々木氏の発表内容の要約

- ①地元には大きな企業とその関連企業はあるが全てを受け入れることは出来ない。世の中にはたくさん仕事がある中で地域には選択肢が少ないことが課題。
- ②地域ブランドがあるのに気付いていない。地域の特産加工品は特にそういう面がある。こういうものの魅力を発信していきたい。
- ③農業経営者が地元を守るためならば、移住者に後継となって欲しいという意向を示しだした。空き家対策とセットで農業後継者育成をしていければと思っている。
- ④民間感覚だと行政に伝わらないことがある。目的が同じなら「やるならどうする？」という考え方にシフトした方が良い。民間は行政を知ること、行政は民間を知ることによって上手く融合出来ると思う。
- ⑤動き続けていきたい。一歩でも動けば見える景色は変わる。

湯沢氏の発表内容の要約

- ①町がまちづくりの方向性をしっかり示さないと明るいビジョンが描けない。
- ②ビジョンを打ち出せば一人一人の役目が見えてくる。そうすれば自分事として一人一人が小さな事でも目標に向かって取組めるし、結果的に大きな動きになる。
- ③ボクシングの合宿の聖地にしたい。これは全国的にも珍しい取組になる。お年寄りが散歩中にシャドーボクシングするようなボクシングの町にしたい。
- ④要望だけを一方的に言うのではなく、また、出来ないとその理由をただ伝えるのではなく、よくしていきたいという目標は同じなので、じっくり話し合うことが必要だ。
- ⑤三種町で自分の夢を叶えたい。花を咲かせるための種を播きたい。

崎山氏の発表内容の要約

- ①課題は結構出ているのでそこへの対処の動きがもっと必要。さらに言えば住民の方の心の動きを起さなければいけない。
- ②地域のために動きたい人が活動するための場、情報を知るための場をつくることが大事。
- ③皆が集まると色々な分野に知見のある人もいて、得意なことが活かせる場面が生まれる。また、何でもやってみようという気持ちも大事だ。
- ④それぞれの役割があるのだが、同じ方向を向かないと上手くいかない。当たり前なのが、実は頑張っている人がいるからあるものなのだと感じて皆で役割を持ってやっていきたい。
- ⑤集落支援員として横串を指すような役目を果たしていきたい。

橋本課長の発表内容の要約

- ①案外簡単に情報発信出来る世の中になったのに地域の素晴らしい情報はなかなか外に出てこない。
- ②自分達の楽しみ、喜びを一つでも多く見付けて発信し、それを見て訪れた人が新たなときめきを見付けると、その地域がさらにときめく場所になるのではないか。
- ③分野ごとではなく縦と横が交わるように色々な人が集まる場所をつくるのが大切。
- ④職員一人一人が地域サービス提供者だ。住民の皆さんがいることで我々もやりがいを持って職務に当たることが出来る。お互い支え合っていると感じている。
- ⑤この事業をしつこく、しつこく諦めないで取組んでいきたい。

当日は参加者 89 名の他、複数のテレビ局、新聞社の記者が取材に訪れたため報道機関による本事業の情報発信もなされた。昨年度は新型コロナウイルス感染症対策のため開催を断念せざるを得なかった全県報告会であるが、今年度は様々な方に協力いただき入場制限を設けはしたが無事開催することが出来た。取組内容と成果を広く周知し、これまでの取組の継続と今後に向けての波及を促すものとして期待の出来る報告会となった。